

# NSG

GROUP

# NSG グループ

## 2023年3月期 第2四半期決算報告

(2022年4月1日～ 2022年9月30日)

日本板硝子株式会社  
2022年11月10日

**森 重樹**

代表執行役社長 兼 CEO

**細沼 宗浩**

代表執行役副社長 兼 COO

**楠瀬 玲子**

執行役常務 CFO

# 目次



1. 2023年3月期 第2四半期決算概要
2. 2023年3月期 業績予想について
3. リバイバル計画24 (RP24) に基づく構造改革施策の主な進捗
4. まとめ

CFOの楠瀬です。

4ページは本日のご説明内容になります。

まず、2023年3月期 第2四半期決算の概要および2023年3月期の業績予想については私から、

そしてリバイバル計画24 (RP24) に基づく構造改革施策の主な進捗についてはCEOの森からご説明致します。

## 1. 2023年3月期 第2四半期決算概要

# 連結損益計算書



売上高、営業利益は増収増益かつ上期業績予想を達成。

原燃材料費高騰の影響を販売価格改善と為替で吸収。

欧州自動車用ガラス事業について、のれんおよび無形資産の減損損失により純損失を計上

(億円)	7-9月期 (3か月)			累計 (6か月)			上期業績 予想
	2022年 3月期	2023年 3月期	差異	2022年 3月期	2023年 3月期	差異	
売上高	1,430	1,977	547	2,907	3,757	850	3,600
営業利益	55	62	6	127	144	17	110
営業利益率	3.9%	3.1%	△ 0.8 pt	4.4%	3.8%	△ 0.6 pt	3.1%
個別開示項目 (純額)	47	△ 473	△ 520	45	△ 449	△ 495	20
個別開示項目後 営業利益 (△損失)	102	△ 411	△ 513	172	△ 305	△ 477	130
金融費用 (純額)	△ 29	△ 37	△ 8	△ 58	△ 66	△ 7	△ 60
持分法による投資利益	19	10	△ 9	33	32	△ 1	20
持分法投資に関する その他の利益 (△損失)	-	5	5	-	△ 7	△ 7	
税引前利益 (△損失)	92	△ 434	△ 526	147	△ 345	△ 493	90
当期利益 (△損失)	67	△ 403	△ 470	96	△ 370	△ 466	40
純利益 (△損失) *	61	△ 412	△ 473	86	△ 388	△ 474	30
EBITDA	146	161	15	311	342	30	

円安もあり全事業で増収。(前年度売却した  
バッテリーセパレーター事業を除く)  
建築用ガラス事業と高機能ガラス事業の好調な  
業績により、自動車用ガラス事業をかバー、上期  
業績予想を達成

【売上高および営業利益 (事業別) : 前年比】

(億円)	売上高	営業利益
建築用	+501	+19
自動車用	+367	△6
高機能	△15	△0
その他	△3	+5
<b>グループ全体</b>	<b>+850</b>	<b>+17</b>

【売上高および営業利益 : 業績予想比】

(億円、%)	売上高	営業利益
グループ全体	+157 (+4%)	+34 (+31%)

欧州の自動車用ガラス事業について、  
のれんおよび無形資産の減損損失を計上

2022年11月10日 | 2023年3月期第2四半期決算報告

\*親会社の所有者に帰属する当期利益 (△損失)

6

まず、6ページの連結損益計算書からご説明致します。

ご覧の表の左側が第2四半期 (3か月) の業績、  
真ん中が上期累計 (6か月) の業績、その右側が上期予想になります。

当第2四半期 (7-9月期) では、  
引き続き自動車メーカーが半導体を中心とした自動車部品不足等の影響を受けたものの、  
販売数量が改善し、価格交渉においても一定の成果がありました。  
また、建築用ガラス事業や高機能ガラス事業の好調継続と円安の影響を受け、  
売上高は前年同期から547億円、38%の増収で1,977億円となりました。  
営業利益は原燃材料費高騰の影響も受けましたが、  
販売価格改善、販売数量増加で吸収し、  
62億円と前年同期比で11%の増益となりました。  
上期累計でも、売上高は前年同期比850億円、29%増収の3,757億円、  
営業利益は前年同期比17億円、14%増益の144億円と増収増益となり、  
前回上方修正した上期業績予想を上回りました。

営業利益より下の項目を見て頂くと、個別開示項目は、  
欧州の自動車用ガラス事業について、2006年のピルキントン社買収により生じた  
のれんおよび無形資産の減損損失488億円を計上し、449億円のマイナスとなりました。  
その結果、個別開示項目後営業損失は、305億円でした。

持分法による投資利益においては、  
ロシアのジョイント・ベンチャーに対する持分法による投資利益を一旦計上するものの、

前年度末に投資の一部に対して減損損失を認識したことに伴い、即時同額を減損しています。  
(なお、この第2四半期の3か月間は損失を計上しているため、5億円のプラス)

以上、個別開示項目費用の計上に伴い、上期累計では税前損失は345億円ながら、無形資産に係る繰延税金負債の取崩し31億円を認識したため、法人所得税が25億円で、当期損失は370億円、純損失は388億円と大幅な赤字となりました。

## 個別開示項目

欧州の自動車用ガラス事業について、のれんおよび無形資産の減損損失を計上。  
 ピルキントン社買収以来の財務上のリスクを軽減し、RP24の重点施策である強い「財務基盤の回復」を目指す

(億円)	2022年3月期 4-9月期	2023年3月期 4-9月期
リストラクチャリング費用	△ 1	△ 1
のれんおよび無形資産の減損損失	-	△ 488
係争案件の解決に係る収益 (△費用) 純額	△ 2	27
子会社売却・事業譲渡による利益	44	11
その他	4	1
<b>個別開示項目 純額</b>	<b>45</b>	<b>△ 449</b>

欧州の自動車用ガラス事業について、2006年のピルキントン社買収により生じたのれん (364億円) および無形資産 (124億円) の全額を減損

2017年に発生した米国での竜巻被害に関し、和解金を受取

中国の自動車用ガラス事業譲渡益 (前年度分はバッテリーセパレーター事業の譲渡益)

7ページは個別開示項目の内訳になります。

欧州の自動車用ガラス事業について、2006年のピルキントン社買収に伴うのれん364億円と無形資産124億円の全額について減損損失を計上しました。

主に当第2四半期中の欧州における金利上昇に伴う割引率の上昇が原因であり、中期的に緩やかな回復を想定している事業の見通しに依然変更はありません。  
 のれんおよび無形資産の全額を減損したことにより  
 ピルキントン社買収以来の財務上のリスクを軽減し、  
 RP24の重点施策である強い「財務基盤の回復」を進めて参ります。

本件減損に関しては次ページに説明を掲載しておりますので、ご参照下さい。

子会社売却・事業譲渡による利益は、  
 昨年度は高機能ガラス事業の中のバッテリーセパレーター事業の売却益、  
 今年度は、中国の自動車用ガラス事業を中国の大手自動車ガラスメーカーと統合したことによる譲渡益が計上されています。



## ピルキントン社買収に伴う欧州自動車事業のれん・無形資産の減損 (ご参考) **NSG** GROUP

**のれん・無形資産の減損損失計上は、主に当第2四半期中の欧州の金利上昇に伴う割引率の上昇によるものであり、当事業の業績回復見通しは変わらず**

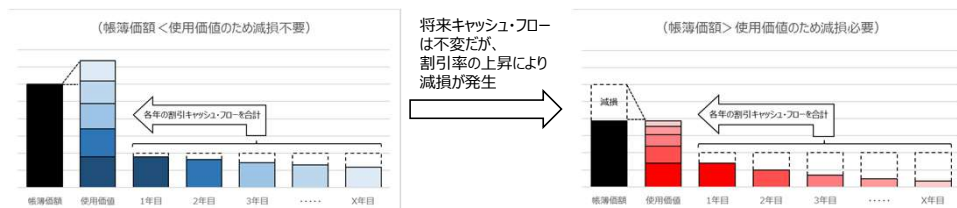
### のれん・無形資産の減損テストとは

- ・ 資金生成単位（事業・地域）の使用価値と、資金生成単位内の資産の帳簿価額を比較
- ・ 使用価値は、各資金生成単位の将来営業キャッシュ・フローの見通しを適切な割引率で割り戻した現在価値として算定

### 当第2四半期における欧州自動車用ガラス事業について、のれんおよび無形資産の減損

- ・ 欧州における金利上昇に伴い減損テストに使用する割引率の約2%上昇（6.92%⇒8.8%）が主因
- ・ 当事業の業績が中期的に回復するとの見通しに変更なし
- ・ 資産評価に伴う一過性の損失、キャッシュ・アウトを伴わない
- ・ 円安等による自己資本の拡大傾向の中、自己資本への影響は比較的軽微
- ・ 欧州の自動車用ガラス事業について、ピルキントン社買収に伴うのれん・無形資産の全額を減損、財務上のリスクを軽減

### 減損テストの例



2022年11月10日 | 2023年3月期第2四半期決算報告

8

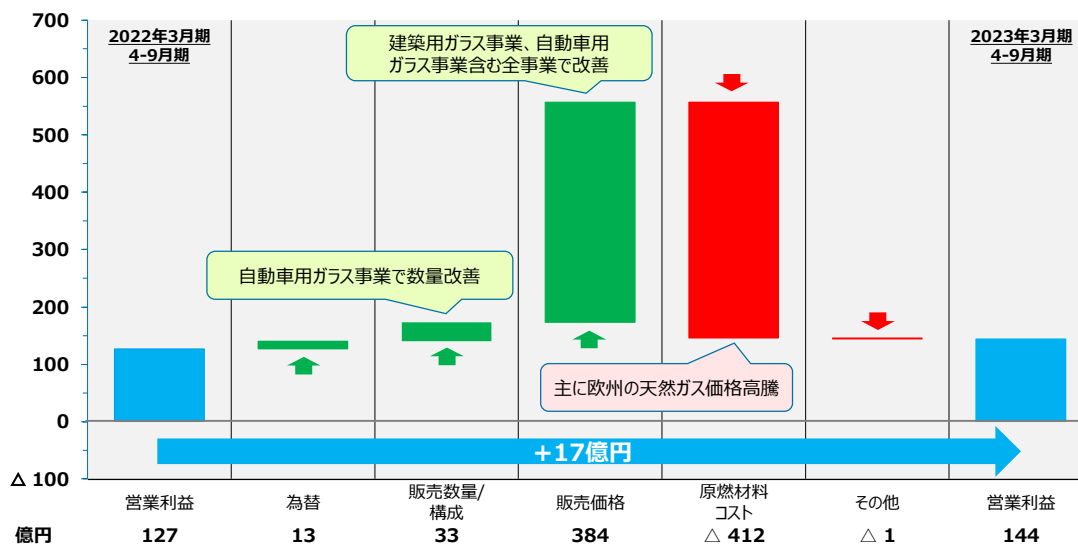
8ページでは、個別開示項目として計上した、欧州の自動車用ガラス事業についての、ピルキントン社買収に伴うのれんおよび無形資産の減損損失について説明します。

まず、のれん・無形資産の減損テストについてですが、当社グループで識別された資金生成単位（CGU）の使用価値と、各CGU内の資産の帳簿価額を比較しました。使用価値は、各資金生成単位の将来営業キャッシュ・フローを割り引いた現在価値として算定しています。

今般の欧州の自動車用ガラス事業についての、のれん及び無形資産の減損は、欧州における金利上昇に伴い減損テストに使用する割引率が6.92%から8.8%と約2%上昇したことが主な原因であり、当事業が中期的には緩やかに回復するとの見通しに変更はありません。また、資産の評価に伴う一過性の損失であり、キャッシュ・アウトもありません。円安等による自己資本の拡大傾向の中、今般減損による自己資本への影響は比較的軽微であり、欧州の自動車用ガラス事業について、ピルキントン社買収に伴うのれんおよび無形資産の全額を減損したことにより、ピルキントン社買収以来の財務上のリスクを軽減し、強い財務基盤の回復を進めて参ります。

## 営業利益差異分析（上期累計）

原燃材料やその他コスト増加の影響を受けたが、販売価格改善および販売数量増加で吸収



2022年11月10日 | 2023年3月期第2四半期決算報告

9

続きまして9ページは、4-9月期、上期6か月間の営業利益について、前年同期との差異分析となります。

前年度上期の営業利益127億円と、当第2四半期累計の営業利益144億円との差異17億円の説明です。

「為替」は、円安の影響を受け13億円のプラスでした。

「販売数量/構成」は、自動車用ガラス事業で改善したため、33億円プラスの結果となりました。

「販売価格」は384億円のプラスで、これは良好な需給環境とエネルギーサーチャージ制を反映した建築用ガラス事業や、自動車メーカーに対する価格交渉が進展した自動車用ガラス事業で価格改善したことによるものです。

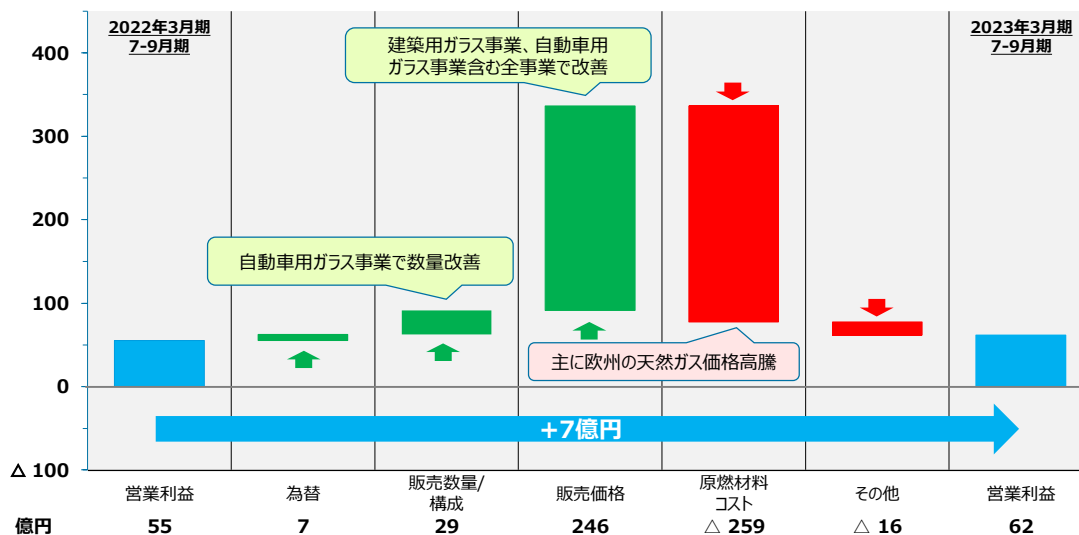
「原燃材料コスト」は、412億円のマイナスで、主に欧州の天然ガスを中心とした全世界でのエネルギー価格と原材料高騰の影響を大きく受けました。

「その他」は、1億円のマイナスとなりました。リバイバル計画24（RP24）の主要施策であるコスト構造改革の成果は継続していますが、運送費などその他のコスト上昇により相殺されました。

原燃材料コスト上昇の影響は、  
全社的な販売価格改善や自動車用ガラス事業における販売数量増加により、  
上期では吸収することができました。

## 営業利益差異分析 (7-9月期)

原燃材料やその他コスト増加の影響を受けたが、販売価格改善および販売数量増加で吸収



2022年11月10日 | 2023年3月期第2四半期決算報告

10

続きまして10ページは、7-9月期、第2四半期3か月間の営業利益について、前年同期との差異分析となります。

前年度第2四半期の営業利益55億円と、当第2四半期の営業利益62億円との差異7億円の説明です。

「為替」は、円安の影響を受け7億円のプラスでした。

「販売数量/構成」は、自動車用ガラス事業で改善したため、29億円プラスの結果となりました。

「販売価格」は、246億円のプラスで、これは自動車メーカーに対する価格転嫁が一部実現した自動車用ガラス事業も含む全事業において、価格が改善したことによるものです。

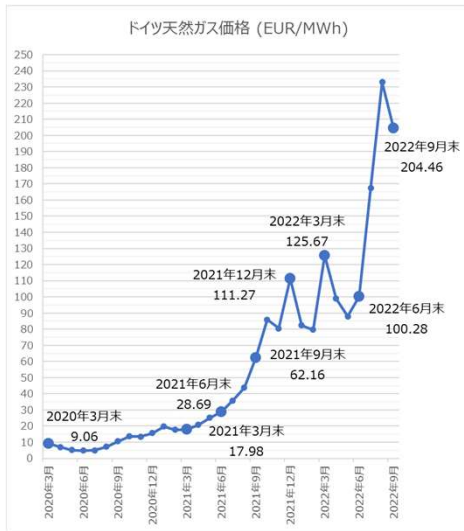
「原燃材料コスト」は、259億円のマイナスで、夏場に欧州の天然ガスが急上昇したことを中心とした全世界でのエネルギー価格や原材料費高騰の影響を大きく受けました。

「その他」は、16億円のマイナスとなりました。リバイバル計画24 (RP24) の主要施策であるコスト構造改革の成果は継続していますが、運送費などその他のコスト上昇により相殺されました。

原燃材料コスト上昇の影響は、  
全社的な販売価格改善や自動車用ガラス事業における販売数量増加により、  
当第2四半期でも吸収することができました。

## エネルギー価格の推移

ドイツの天然ガス価格：2022年9月末はEUR200/MWh超と第2四半期に急騰。  
日本の重油価格：当第2四半期は80,000円/KI超の高価格で推移



2022年11月10日 | 2023年3月期第2四半期決算報告

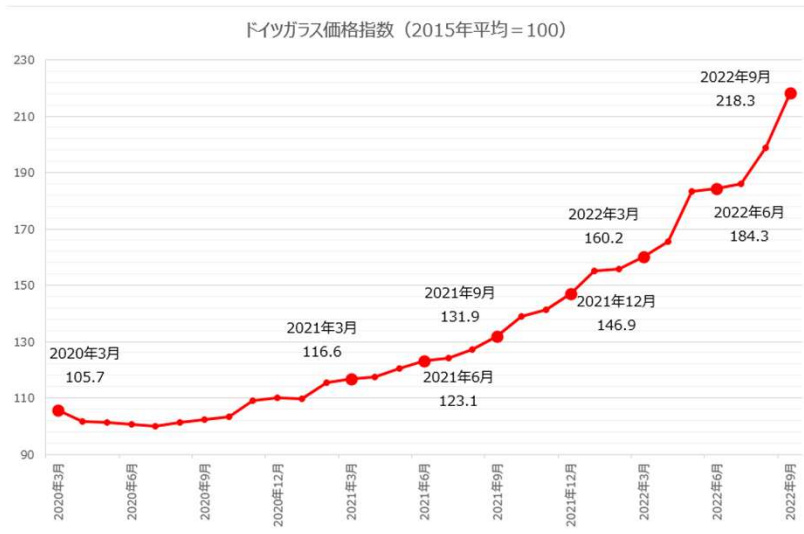
11

続きまして、11ページでエネルギー価格の推移を示しています。

左側がドイツの天然ガスの市場価格の推移、  
右側が日本の重油の市場価格の推移になります。  
直近ではやや下落しているものの、  
ドイツの天然ガス価格の急騰および日本における重油価格の高騰が、ご覧頂けます。  
ドイツにおいては天然ガスの価格は特に7月から8月にかけて急騰し、  
9月末の天然ガス価格は、やや下げてきましたが、EUR200/MWhを超えました。

## ガラス価格の推移

ドイツのガラス価格は、2022年9月は2021年9月比1.7倍に上昇。  
天然ガスを中心とした原燃材料価格高騰の影響を吸収



2022年11月10日 | 2023年3月期第2四半期決算報告

12

一方で、12ページはドイツのガラス価格の推移を示しています。

こちらはドイツのガラスの市場価格の推移になりますが、  
2021年9月から2022年9月にかけて1.7倍に上昇しており、  
欧州の天然ガスを中心とした原燃材料価格高騰の影響を吸収しています。

## 連結貸借対照表



円安影響、エネルギーヘッジ評価益、退職給付債務の減少、超インフレ調整の影響もあり、のれんおよび無形資産減損後も自己資本比率15%超を維持

(億円)	2022年 3月末	2022年 9月末	増減	
<b>資産合計</b>	<b>9,393</b>	<b>10,074</b>	<b>682</b>	減損によるのれん、無形資産の減少。 一方で円安影響、デリバティブ金融資産の増加
非流動資産	6,370	6,604	234	
流動資産	3,022	3,470	448	棚卸資産、売上債権の増加
<b>負債合計</b>	<b>7,699</b>	<b>8,245</b>	<b>545</b>	借入金、仕入債務の増加
流動負債	3,067	3,790	723	
非流動負債	4,632	4,454	△ 178	減損損失を計上したが、円安影響、エネルギーヘッジ評価益、退職給付債務の減少および超インフレ調整の影響により改善。自己資本比率15%超を維持
<b>資本合計</b>	<b>1,694</b>	<b>1,830</b>	<b>136</b>	
親会社の所有者に帰属する持分	1,453	1,519	66	主にフリー・キャッシュ・フローのマイナス、円安影響による
<b>自己資本比率 (%)</b>	<b>15.5%</b>	<b>15.1%</b>	<b>△ 0.4pt</b>	
<b>ネット借入</b>	<b>3,652</b>	<b>3,750</b>	<b>98</b>	

2022年11月10日 | 2023年3月期第2四半期決算報告

13

13ページは連結貸借対照表になります。

非流動資産は、のれんおよび無形資産は減損により減少しましたが、円安影響と世界的に燃料価格が上昇したことによるエネルギーヘッジに伴うデリバティブ金融資産が増加し、234億円の増となりました。

流動資産は、主に建築用ガラス事業において、原燃材料費高騰の影響を受けた棚卸資産の増加と、売上債権の増加により、448億円の増でした。

流動負債は、為替と原燃材料費高騰の影響もあり、借入金と仕入債務が増加し、723億円の増でした。

親会社の所有者に帰属する持分は、減損損失の計上があったものの、円安影響、エネルギーヘッジに係るデリバティブの評価益、退職給付債務の減少、および超インフレ調整の影響により増加、66億円増の1,519億円でした。

この結果、自己資本比率は15.1%となり、多額の減損損失計上後もRP24の財務目標数値である自己資本比率10%以上を維持できています。

ネット借入は、主にフリー・キャッシュ・フローのマイナスと円安影響により、98億円増加しました。



# 連結キャッシュ・フロー計算書



季節性に伴う運転資本増加によりフリー・キャッシュ・フローはマイナスながら、当第2四半期は改善傾向。通期では前年度と同様にプラス、RP24の財務数値目標達成を目指す

(億円)	7-9月期 (3か月)			4-9月期累計 (6か月)		
	2022年 3月期	2023年 3月期	差異	2022年 3月期	2023年 3月期	差異
営業活動によるキャッシュ・フロー	152	146	△ 6	145	114	△ 31
(うち、運転資本の増減)	33	47	14	△ 87	△ 154	△ 67
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 70	△ 113	△ 42	△ 159	△ 209	△ 51
(うち、有形固定資産の取得)	△ 120	△ 100	20	△ 203	△ 191	12
フリー・キャッシュ・フロー	82	34	△ 48	△ 14	△ 95	△ 81
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 87	△ 5	82	△ 119	15	134
現金及び現金同等物の増減	△ 5	28	33	△ 132	△ 80	52
現金及び現金同等物 期末残高				407	552	145

上期累計では運転資本増加ながら7-9月期は改善傾向

前年はバッテリーセパレーター事業の譲渡収入を計上

前年同期並みで推移

改善傾向にあり通期でプラスを目指す

2022年11月10日 | 2023年3月期第2四半期決算報告

14

14ページは、連結キャッシュ・フロー計算書です。

営業活動によるキャッシュ・フローは、上期の6か月間では、運転資本増により前年同期より31億円の減で、114億円のプラスとなりました。一方、7-9月期の3か月間では、146億円のプラスと運転資本減少の影響を受けて、改善傾向でした。

投資活動によるキャッシュ・フローは、累計で前年同期から51億円減少しています。これは、前年はバッテリーセパレーター事業の譲渡収入を計上したためです。

以上により、4-9月期累計のフリー・キャッシュ・フローは95億円のマイナスとなりましたが、7-9月期では34億円のプラスと改善傾向にあり、前年に引き続き、通期ではRP24の財務目標である100億円以上のプラスを目指します。

# セグメント情報



(億円)	2021年3月期 4-9月期				2022年3月期 4-9月期			2023年3月期 4-9月期		
	売上高	%	営業利益	COVID後 営業利益*	売上高	%	営業利益	売上高	%	営業利益
<b>建築用ガラス事業</b>	<b>990</b>	<b>45%</b>	<b>73</b>	<b>19</b>	<b>1,320</b>	<b>45%</b>	<b>136</b>	<b>1,821</b>	<b>48%</b>	<b>155</b>
欧州	382	17%			549	19%		788	21%	
アジア	378	17%			403	14%		490	13%	
米州	230	10%			369	13%		543	14%	
<b>自動車用ガラス事業</b>	<b>1,053</b>	<b>48%</b>	<b>△ 24</b>	<b>△ 99</b>	<b>1,352</b>	<b>47%</b>	<b>△ 11</b>	<b>1,719</b>	<b>46%</b>	<b>△ 17</b>
欧州	433	20%			591	20%		699	19%	
アジア	258	12%			280	10%		324	9%	
米州	362	16%			482	17%		696	19%	
<b>高機能ガラス事業</b>	<b>165</b>	<b>7%</b>	<b>25</b>	<b>22</b>	<b>217</b>	<b>7%</b>	<b>57</b>	<b>202</b>	<b>5%</b>	<b>57</b>
欧州	27	1%			39	1%		46	1%	
アジア	133	6%			172	6%		148	4%	
米州	5	0%			6	0%		8	0%	
<b>その他</b>	<b>6</b>	<b>0%</b>	<b>△ 41</b>	<b>△ 38</b>	<b>18</b>	<b>1%</b>	<b>△ 56</b>	<b>15</b>	<b>0%</b>	<b>△ 51</b>
<b>合計</b>	<b>2,214</b>	<b>100%</b>	<b>32</b>	<b>△ 96</b>	<b>2,907</b>	<b>100%</b>	<b>127</b>	<b>3,757</b>	<b>100%</b>	<b>144</b>

2022年11月10日 | 2023年3月期第2四半期決算報告

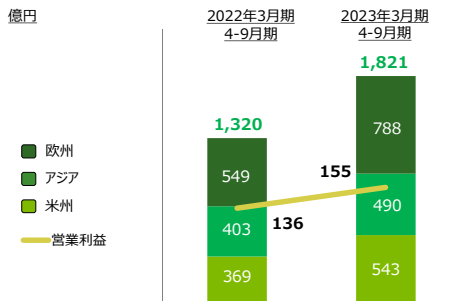
\*COVID-19関連個別開示項目後営業利益 15

15ページは、過去3か年度の上期の事業セグメント毎に売上高及び営業利益を示しています。各事業の詳細については次ページ以降のスライドでご説明します。

# 建築用ガラス事業 (累計：増収・増益 7-9月期：増収・減益)



全地域で堅調な需要が継続、為替影響もあり大幅増収  
エネルギーを中心に原燃材料価格高騰の影響を受けるが、価格改善により累計では増益



## 欧州 (累計：増収・減益 7-9月期：増収・減益)

- 需要がやや減少の兆しあり
- 天然ガスを中心とした原燃材料費や輸送コストの急騰と価格転嫁の時期ずれもあり、収益性は悪化

## アジア (累計：増収・増益 7-9月期：増収・増益)

- 日本を含め堅調な需要が継続、価格改善も進展
- 太陽電池パネル用ガラスの需要は堅調

## 米州 (累計：増収・増益 7-9月期：増収・増益)

- 北米は、輸送コンテナ不足による出荷の制約が続くが、強い需要を背景に販売価格が上昇
- 太陽電池パネル用ガラスの需要は堅調
- 南米は強い需要が継続

(億円)	7-9月期(3か月)			累計(6か月)		
	2022年 3月期	2023年 3月期	差異	2022年 3月期	2023年 3月期	差異
売上高	675	965	290	1,320	1,821	501
欧州	271	406	135	549	788	240
アジア	210	261	51	403	490	87
米州	194	298	104	369	543	174
営業利益	75	66	△9	136	155	19

2022年11月10日 | 2023年3月期第2四半期決算報告

16

16ページは、建築用ガラス事業です。

建築用ガラス事業は、為替の円安効果に加えて、全地域での強い需要と価格改善を背景に大幅な増収が継続しています。営業利益は、エネルギー価格高騰の影響を受けましたが、良好な需給環境を反映した値上げにより軽減し、欧州以外では増益を維持しました。

欧州は、増収減益となりました。引き続き新築だけでなく、リフォームによる強い需要が継続しましたが、エネルギー価格の高騰、インフレの進行と金利上昇により、企業の景況感や消費者マインドが悪化し、販売数量は減少の兆しが見えたこと、夏場に天然ガスを中心とした原燃材料費や輸送コストの急騰と価格転嫁の時期がずれたことにより収益性が悪化しました。

アジアは、増収増益でした。日本国内における販売数量・価格改善が進展し、その他諸国においても経済回復を反映した好調な業績を継続しました。太陽電池パネル用ガラスの需要も引き続き堅調に推移しています。

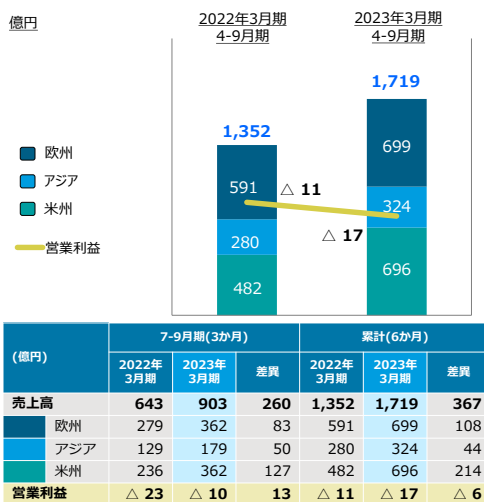
米州も、増収増益となりました。北米は、輸送コンテナの不足による出荷の制約が続きましたが、強い需要とエネルギーサーチャージ制を背景に、販売価格が増加しました。太陽電池パネル用ガラスの需要は引き続き堅調です。

南米は、強い需要が継続しています。

# 自動車用ガラス事業 (累計：増収・減益 7-9月期：増収・増益)



部品不足による自動車生産制約の影響が続くが、欧州では徐々に解消。  
自動車メーカー販売価格改善が実現したが、原燃材料コスト高騰の影響も継続



欧州 (累計：増収・減益 7-9月期：増収・増益)

アジア (累計：増収・減益 7-9月期：増収・増益)

米州 (累計：増収・減益 7-9月期：増収・減益)

- 半導体等自動車部品不足による自動車生産の制約の影響が続いているが、欧州では徐々に解消
- 日本では舞鶴の定期修繕が完了
- 米州では需要が堅調
- 多くの自動車メーカーとの価格改善交渉が合意、当第2四半期で一部実現
- コスト削減努力、高付加価値化も継続中だが、原燃材料コスト高騰を完全に吸収するには至らず

2022年11月10日 | 2023年3月期第2四半期決算報告

17

17ページは自動車用ガラス事業です。

自動車用ガラス事業は、上期累計では為替影響もあり全体として増収でしたが、自動車生産制約、原燃材料コスト高騰の影響を受けて減益でした。

一方で、当第2四半期では、

販売数量改善とともに自動車メーカーに対する販売価格改善が実現したことにより、営業赤字は縮小しました。

依然として半導体を中心とした自動車部品不足による

自動車生産の制約は継続していますが、

欧州では第2四半期から徐々に回復する兆しが見えてきました。

また、日本では舞鶴のフロート窯の定期修繕が当第2四半期に終了し、

下期以降、生産効率改善やコスト削減により、収益性の改善に貢献する見込みです。

米州では強い需要が継続しています。

自動車メーカーとの、

投入コスト上昇を緩和することを目的とした価格改善交渉については、

多くのメーカーと合意に達し当第2四半期で一部実現しています。

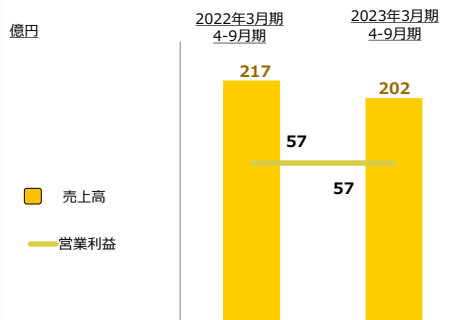
これらに加えて継続的なコスト削減努力や高付加価値化も進めていますが、

原燃材料コストの急騰を完全にはカバーすることはできず、営業赤字となっています。

## 高機能ガラス事業 (累計：増収・増益 7-9月期：増収・増益)



引き続き堅調な需要、為替影響、コスト削減を背景に増収増益を継続  
(前年9月に売却したバッテリーセパレーター事業を除く)



- ファインガラスは、継続的なコスト削減による事業基盤の強化や売上構成の改善により業績は改善
- プリンター用レンズは、半導体等部品不足の影響を受けたものの、需要が引き続き堅調
- グラスコードはアフターマーケット用を中心に需要が堅調
- メタシャイン® は自動車塗装及び化粧品向けで需要がわずかに回復

(億円)	7-9月期(3か月)			累計(6か月)		
	2022年 3月期	2023年 3月期	差異	2022年 3月期	2023年 3月期	差異
売上高	103	102	△ 1	217	202	△ 15
営業利益	29	25	△ 4	57	57	△ 0

2022年11月10日 | 2023年3月期第2四半期決算報告

18

続きまして18ページです。

高機能ガラス事業は、堅調な需要の継続と為替影響、コスト削減を背景に、増収増益となりました。

売上高は前年同期より減少し、営業利益は横ばいに見えますが、2021年9月に売却したバッテリーセパレーター事業分を勘案すると、増収増益です。

ファインガラスは、継続的なコスト削減による事業基盤の強化や売上構成の改善により業績は改善しました。

プリンター用レンズは、半導体等部品不足の影響を受けましたが、需要は引き続き堅調です。

グラスコードはアフターマーケット用を中心に需要が堅調、メタシャインも自動車塗装および化粧品向けで需要がわずかに回復を見せました。

全体としての収益性は引き続き高水準を維持しています。

## 2. 2023年3月期 業績予想について

## 2023年3月期通期業績予想の前提

グループ	<p>上期実績を踏まえ通期売上高予想を上方修正、不透明な事業環境を考慮し営業利益予想は据え置き</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 円安の影響が継続</li> <li>● エネルギー価格高騰、世界的なインフレ拡大等で投入コスト増加が継続</li> <li>● 金利上昇による潜在的な景気後退などのリスクにより下期の事業環境は依然不透明</li> <li>● 引き続き全社的なコスト削減、高付加価値製品拡大、価格改善に努め、収益性改善に注力</li> </ul>
建築用ガラス	<p>良好な需給環境継続を期待、一方で欧米を中心にエネルギー価格高騰の影響と景気後退懸念</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 欧州：エネルギー供給不安、原燃材料費高騰は続くが、価格転嫁も継続。景気後退懸念</li> <li>● アジア：日本の数量および価格が回復し、好調継続。ベトナムでの定期修繕が進捗</li> <li>● 北米：市場は好調継続ながら利上げによる景気後退懸念</li> <li>● 南米：タイトな需給環境が継続、アルゼンチンの新フロート窯の稼働が貢献</li> <li>● 太陽電池パネル用ガラス：堅調な需要が続き、マレーシアで生産設備を新設</li> </ul>
自動車用ガラス	<p>自動車需要は堅調だが、半導体等部品不足と原燃材料費高騰の影響が続く見込み、価格改善交渉継続</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 全地域で強い自動車需要と在庫逼迫感は継続</li> <li>● 自動車メーカーとの価格改善交渉がさらに進展、徐々に効果が発現</li> <li>● 半導体等部品不足は続くが、徐々に解消していく見込み</li> <li>● 日本では舞鶴の定期修繕が完了し、下期以降収益性の改善に貢献する見込み</li> <li>● 原燃材料費高騰をコスト削減、高付加価値製品拡大、価格改善により軽減、黒字転換を目指す</li> </ul>
高機能ガラス	<p>当面は安定した事業環境が継続</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ファインガラスは、売上構成の改善と継続的なコスト削減が貢献</li> <li>● プリンター用レンズは、部品不足による影響等先行きも注視</li> <li>● グラスコードは、アフターマーケット用を中心に安定した需要</li> </ul>

2022年11月10日 | 2023年3月期第2四半期決算報告

20

続いて2023年3月期の業績予想です。  
スライド20は、2023年3月期業績予想の前提を示しています。

今般、2023年3月期の通期売上高予想を、円安や上期の業績が想定を上回ったことを踏まえ、上方修正しました。しかしながら、通期の営業利益予想は、前回に引き続き今回も据え置いています。これは、エネルギー価格の高騰、世界的なインフレ傾向を反映した投入コスト増加や、金利上昇の影響による景気後退リスクなどの依然不透明な事業環境を見極めることが必要と判断したためです。今後も全社的なコスト削減努力や高付加価値製品の拡大、価格改善などに取り組むことにより、これらの潜在的リスクの影響を低減し、収益性の改善に注力してまいります。

事業別に見ますと、建築用ガラス事業では、欧州は、天然ガスを中心としたエネルギー供給に対する不安、原燃材料費高騰が継続すると予測、対応策を準備しつつ、価格転嫁を継続していきます。しかしながら一方で、景気後退による需要の減少も懸念されます。アジアでは、日本では数量の増に加え、10月からの値上げ効果も発現する見込みです。北米では、好調な経済活動に伴い域内市場は好調が継続しますが、利上げによる景気後退が懸念されます。南米ではタイトな需給環境が継続、アルゼンチンでの新フロート窯が稼働を開始し、下期から貢献する想定です。太陽電池パネル用ガラスは、引き続き堅調な需要を見込んでいます。なお、マレーシアの既存フロート窯にオンラインコーティング設備を新設し、2024年3月期の第4四半期に、太陽電池パネル用ガラスを生産開始する予定です。

自動車用ガラス事業では、半導体不足に伴う自動車生産の制約は徐々に改善するものの、原燃材料費高騰は継続する見込みです。一方で、自動車メーカーに対する価格改善は第2四半期に一部実現しており、

下期以降、引き続き交渉を進めて参ります。  
日本では、舞鶴のフロート窯の定期修繕が当第2四半期に終了し、  
下期以降、生産効率改善やコスト削減により、収益性の改善に貢献する見込みです。  
引き続き、コスト削減、高付加価値製品の拡大、価格改善を進め、黒字転換を目指します。

高機能ガラス事業では、当面は安定した事業環境が継続する見込みです。

なお、個別開示項目後営業損失以下の利益項目は、  
上期の個別開示項目費用計上を踏まえ、下方修正しています。



## 2023年3月期通期業績予想

想定を上回る上期実績を踏まえ、通期売上高予想を上方修正。  
依然不透明な下期の事業環境を見極める必要から、営業利益予想は引き続き据え置き

(億円)	2023年3月期 上期予想 (前回)	2023年3月期 上期実績	2023年3月期 通期予想 (前回)	2023年3月期 通期予想 (今回)	2022年3月期 通期実績
売上高	3,600	<b>3,757</b>	6,900	<b>7,400</b>	6,006
営業利益	110	<b>144</b>	180	<b>180</b>	200
個別開示項目(純額)	20	<b>△ 449</b>	20	<b>△ 450</b>	36
個別開示項目後営業利益 (△損失)	130	<b>△ 305</b>	200	<b>△ 270</b>	236
金融費用(純額)	△ 60	<b>△ 66</b>	△ 130	<b>△ 130</b>	△ 125
持分法適用会社に対する 金融債権の減損損失	-	-	-	-	△ 34
持分法による投資損益	} 20	<b>32</b>	} 40	} <b>50</b>	75
持分法投資に関する その他の利益(△損失)		<b>△ 7</b>			△ 34
税引前利益(△損失)	90	<b>△ 345</b>	110	<b>△ 350</b>	119
当期利益(△損失)	40	<b>△ 370</b>	50	<b>△ 380</b>	68
純利益(△損失)*	30	<b>△ 388</b>	40	<b>△ 410</b>	41

2022年11月10日 | 2023年3月期第2四半期決算報告

\*親会社の所有者に帰属する当期利益(△損失)

21

スライド21ページに移ります。  
こちらが2023年3月期の通期業績予想になります。

表の左側から、2023年3月期の前回上期予想、今回上期実績、  
前回通期予想、今回通期予想、前年2022年3月期通期実績と並んでおります。

先ほどご説明した通り、通期売上高予想を上方修正致しましたが、  
通期営業利益予想は据え置きました。

RP24の施策に基づき、全社的なコスト削減、高付加価値製品の拡大および  
価格改善により潜在的なリスクの影響を軽減し、  
引き続き収益性の改善と通期業績予想の達成に注力してまいります。

ここでCEOの森に代わり、リバイバル計画24 (RP24) の進捗についてご説明致します。

### 3. リバイバル計画24 (RP24) に基づく構造改革施策の主な進捗

## リバイバル計画24(RP24)に基づく構造改革施策の主な進捗

引き続き持続的な成長が可能な事業体質を目指してRP24の主要施策を推進。  
財務目標数値では、多額の減損損失計上後も、目標を上回る自己資本比率を維持

### 3つの改革

#### ● 事業構造改革

- ・ マレーシアの既存フロート窯に、太陽電池パネル用ガラスを製造するためのオンラインコーティング設備を新設（2024年3月期より生産開始予定）
- ・ アルゼンチン2基目の新フロート窯建設完了、第3四半期から生産開始、市場拡大が続いている南米での事業拡大を推進



アルゼンチン新フロート窯

### 2つの重点施策

#### ● 財務基盤の回復（2023年3月期 4-9月期実績）

- ・ 欧州の自動車用ガラス事業について、のれんおよび無形資産の減損損失488億円を計上後も、自己資本比率15%超を維持、ピルキントン社買収以来の長年の財務上のリスクを軽減、強固な財務基盤の回復を推進
- ・ 2022年9月末現預金残高569億円、未使用融資枠379億円

#### ● 高収益事業へのポートフォリオ転換

- ・ 中国の大手自動車用ガラスメーカーと中国の自動車用ガラス事業統合について契約

2022年11月10日 | 2023年3月期第2四半期決算報告 RP24 説明資料:  
[https://www.nsg.co.jp/-/media/nsg-jp/ir/ir-presentations/mtprp24presentation2021\\_j01.pdf](https://www.nsg.co.jp/-/media/nsg-jp/ir/ir-presentations/mtprp24presentation2021_j01.pdf)

23

CEOの森です。

続きまして、リバイバル計画24（RP24）に基づく構造改革について、23ページで主要な進捗を説明します。

景気後退不安、自動車生産の制約、原燃材料価格の高騰などの逆風下にあるものの、中期経営計画RP24の2年目においても主要施策を継続、推進しており、多額の減損損失の計上後も、なお自己資本比率は15.1%と財務目標数値の10%以上を上回っています。

RP24では持続的な成長が可能な事業体質を目指して「3つの改革」と「2つの重点施策」を掲げていますが、「3つの改革」の中の一つである「事業構造改革」では、高付加価値事業の拡大・新規成長分野の育成を進めています。既に太陽電池パネル用ガラスが当社の収益とともに環境にも貢献していますが、ファーストソーラー社のアジアにおける生産拡張方針に沿って、当社子会社のマレーシアのフロート窯でオンラインコーティング設備を新設し、2024年3月期の第4四半期に、太陽電池パネル用ガラスを生産開始する予定です。また、10月28日付のニュースリリースでお知らせした通り、アルゼンチンで2基目となる新フロート窯建設工事を無事完了しており、第3四半期から生産を開始しています。活発な建築需要が供給を上回る南米での事業拡大を推進します。

続いて「2つの重点施策」についてご説明致します。「財務基盤の回復」については、「コスト構造改革」や「事業構造改革」を推進する一方で、環境の変化もあり、多額の減損損失後も、自己資本比率は、財務目標数値である10%を上回ることができています。ピルキントン社買収以来の長年の財務上のリスクを軽減し、自動車生産台数回復や高騰した原燃材料費の自動車メーカーに対する価格転嫁実現が一定の成果を上げていることを好機として、強い財務基盤の回復を進めて参ります。

「高収益事業へのポートフォリオ転換」については、  
当社グループの中国国内の自動車用ガラス事業と、  
中国の大手自動車用ガラスメーカーとの事業統合について、契約をしました。

## 4. まとめ

# まとめ



## 1. 2023年3月期 第2四半期決算

- 売上高、営業利益は増収増益かつ上期業績予想を達成
- 建築用ガラス事業および高機能ガラス事業の好調が継続、自動車用ガラス事業でも価格転嫁が一部実現
- 原燃材料やその他コスト増加の影響を販売価格改善及び販売数量増加で吸収
- 金利上昇に伴い、欧州の自動車用ガラス事業について、のれん・無形資産の減損損失を個別開示項目に計上、ビルキントン社買収以来の財務上のリスクを軽減し、強い財務基盤の回復へ
- 自己資本比率はRP24の財務目標数値を上回る15%超を維持

## 2. 2023年3月期 通期業績予想

- 想定を上回る上期実績および円安の影響を踏まえ、通期売上高予想を上方修正
- 下期の不透明な事業環境を考慮し、通期営業利益予想は据え置き
- エネルギー価格高騰、世界的なインフレ拡大等で投入コスト増加の影響が継続
- 引き続き全社的なコスト削減、高付加価値製品拡大、価格転嫁に努め、収益性改善に注力

## 3. リバイバル計画24 (RP24) に基づく構造改革施策の主な進捗

- 事業構造改革：アルゼンチン2基目となる新フロート窯建設完了、下期稼働が貢献  
財務基盤の回復：欧州の自動車用ガラス事業について、のれんおよび無形資産の減損損失を計上後も自己資本比率15%超を維持
- 高収益事業へのポートフォリオ転換：中国の大手自動車用ガラスメーカーと中国の自動車用ガラス事業統合について契約

## ご注意



当資料の業績見通しは、当社が現時点で入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。その要因の主なものとしては、主要市場の経済環境及び競争環境、製品需給、為替・金利相場、原燃料市場環境、法規制の変動等がありますが、これらに限定されるものではありません。

日本板硝子株式会社

## 補足資料



- 連結損益計算書 四半期別推移
- 事業部門別・地域別業績 四半期別推移
- セグメント情報
- 地域別売上高及び営業利益
- 為替レート・為替感応度
- 減価償却費・資本的支出・研究開発費
- エネルギーコスト内訳
- 主なニュースリリース



# 連結損益計算書 四半期別推移



(億円)	2021年 3月期				2022年 3月期				2023年 3月期	
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期
売上高	919	1,297	1,358	1,419	1,477	1,430	1,523	1,576	1,779	1,977
営業利益 (△損失)	△ 6	38	48	50	72	55	18	55	83	62
営業利益率	-	2.9%	3.5%	3.6%	4.8%	3.9%	1.2%	3.5%	4.6%	3.1%
個別開示項目 (純額)	△ 1	△ 8	10	△ 61	△ 2	47	△ 2	△ 7	23	△ 473
個別開示項目後営業利益 (△損失)	△ 122	17	46	△ 31	70	102	17	48	106	△ 411
金融費用 (純額)	△ 24	△ 30	△ 21	△ 35	△ 29	△ 29	△ 32	△ 34	△ 28	△ 37
持分法による投資利益	△ 4	2	10	13	15	19	22	19	22	10
持分法投資に関する その他の利益 (△損失)	-	-	-	6	-	-	-	△ 34	△ 12	5
税引前利益 (△損失)	△ 149	△ 11	35	△ 47	55	92	7	△ 36	88	△ 434
当期利益 (△損失)	△ 165	△ 7	37	△ 28	29	67	10	△ 38	33	△ 403
純利益 (△損失) *	△ 164	△ 9	34	△ 30	25	61	0	△ 45	24	△ 412
EBITDA	61	127	135	145	165	146	111	144	180	161

\*親会社の所有者に帰属する当期利益 (△損失)

2022年11月10日 | 2023年3月期第2四半期決算報告

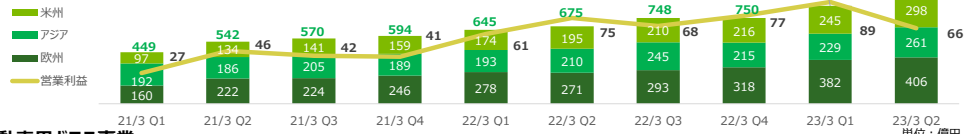
28

# 事業部門別・地域別売上高及び営業利益 四半期別推移



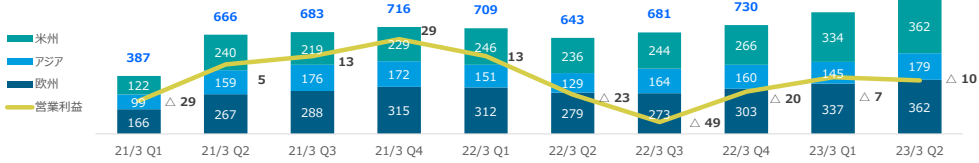
## 建築用ガス事業

単位：億円



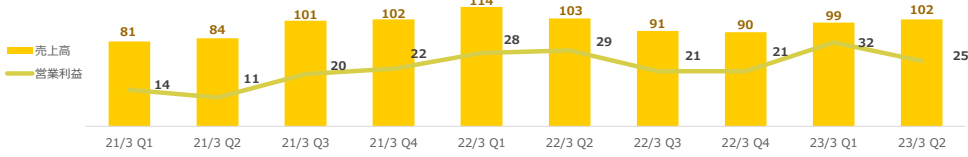
## 自動車用ガス事業

単位：億円



## 高性能ガス事業

単位：億円



2022年11月10日 | 2023年3月期第2四半期決算報告

# セグメント情報



(億円)	2021年3月期					2022年3月期					2023年3月期		
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	累計	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	累計	4-6月期	7-9月期	累計
売上高: 建築用ガラス	449	542	570	594	2,155	645	675	748	750	2,818	856	965	1,821
欧州	160	222	224	245	852	278	271	293	318	1,160	382	406	788
アジア	192	186	205	189	772	193	210	245	215	862	229	261	490
米州	97	134	141	160	531	174	194	210	216	795	245	298	543
営業利益	27	46	43	41	157	61	75	68	77	281	89	66	155
COVID後営業利益*	△ 22	41	38	34	91	-	-	-	-	-	-	-	-
売上高: 自動車用ガラス	387	667	682	716	2,452	709	643	681	730	2,762	816	903	1,719
欧州	166	267	288	315	1,036	312	279	273	303	1,167	337	362	699
アジア	99	159	176	173	606	151	129	164	160	604	145	179	324
米州	122	241	219	229	810	246	236	244	266	992	334	362	696
営業利益	△ 29	5	13	29	18	13	△ 23	△ 49	△ 20	△ 79	△ 7	△ 10	△ 17
COVID後営業利益*	△ 93	△ 6	4	17	△ 78	-	-	-	-	-	-	-	-
売上高: 高機能ガラス	81	84	101	102	368	114	103	91	90	398	99	102	202
欧州	13	14	18	19	64	21	18	20	20	79	21	25	46
アジア	65	67	80	81	293	90	82	68	66	306	75	73	148
米州	3	3	3	3	11	3	3	3	4	13	4	5	8
営業利益	14	11	20	22	67	28	29	21	21	99	32	25	57
COVID後営業利益*	12	10	21	22	65	-	-	-	-	-	-	-	-
売上高: その他	2	4	5	6	17	9	8	3	7	27	8	7	15
営業利益	△ 18	△ 23	△ 28	△ 42	△ 111	△ 31	△ 25	△ 22	△ 24	△ 101	△ 31	△ 19	△ 51
COVID後営業利益*	△ 18	△ 20	△ 27	△ 43	△ 108	-	-	-	-	-	-	-	-
売上高: 合計	919	1,297	1,358	1,419	4,992	1,477	1,430	1,523	1,576	6,006	1,779	1,977	3,757
営業利益	△ 6	38	48	50	131	72	55	18	55	200	83	62	144
COVID後営業利益*	△ 121	25	36	30	△ 30	-	-	-	-	-	-	-	-

2022年11月10日 | 2023年3月期第2四半期決算報告

\*COVID-19関連個別開示項目後営業利益

## 地域別売上高及び営業利益



(億円)	2022年3月期 4-9月期			2023年3月期 4-9月期			増減	
	売上高	%	営業利益 (△損失)	売上高	%	営業利益 (△損失)	売上高	営業利益 (△損失)
欧州	1,179	41%	29	1,533	41%	10	355	△ 18
アジア	854	29%	98	961	26%	114	107	16
米州	857	29%	56	1,247	33%	71	391	15
その他 *	18	1%	△ 56	15	0%	△ 51	△ 3	5
合計	2,907	100%	127	3,757	100%	144	850	17

\* 「その他」セグメントの売上高、営業利益は地域別に区分していない。

# 為替レート・為替感応度



## 期中平均レート

	2021年 3月期				2022年 3月期				2023年 3月期	
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2
英ポンド	133	135	136	139	153	152	153	153	163	163
ユーロ	118	121	123	124	132	131	131	130	138	139
米ドル	107	106	106	106	109	109	112	112	129	134
ブラジル・レアル	19.9	19.8	19.7	19.7	20.6	20.8	20.7	21.0	26.4	26.4
アルゼンチン・ペソ	超インフレ会計の適用により、期末レートのみ使用									

## 期末レート

	2021年 3月期				2022年 3月期				2023年 3月期	
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2
英ポンド	132	135	141	152	153	150	156	160	165	161
ユーロ	121	124	127	130	132	129	131	136	142	141
米ドル	107	105	103	111	111	112	116	122	136	145
ブラジル・レアル	19.9	18.7	19.8	19.1	22.3	20.6	20.4	25.5	26.2	26.7
アルゼンチン・ペソ	1.53	1.38	1.22	1.20	1.16	1.13	1.12	1.10	1.09	0.98

## 為替感応度

他の前提に変動がない条件で、  
為替レートが他の通貨に対して  
1%円安になった場合の影響額

	2022年 3月期
資本	40.0億円 の増加
当期利益	1.0億円 の改善

## 減価償却費・資本的支出・研究開発費



(億円)	2022年3月期 4-9月期	2023年3月期 4-9月期	2023年3月期 見通し
<b>減価償却費</b>	<b>184</b>	<b>197</b>	<b>390</b>
<b>資本的支出</b>	<b>102</b>	<b>176</b>	<b>400</b>
通常投資	93	151	
戦略投資、他	9	25	
<b>研究開発費</b>	<b>41</b>	<b>46</b>	<b>95</b>
建築用ガラス事業	12	14	
自動車用ガラス事業	12	13	
高機能ガラス事業	5	5	
その他	12	14	

# エネルギーコスト内訳 (2022年3月期→2023年3月期)



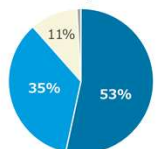
エネルギーコストは前年同期比グループ全体で+111%\*、天然ガスは+153%。

天然ガス価格高騰が続き、グループ全体に占める割合は64%にまで上昇。

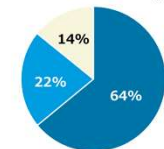
地域別では欧州および米州、事業別では建築用ガス事業で天然ガス使用量が大きくコスト上昇

2022年3月期 (4-9月期)

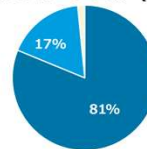
グループ全体 (エネルギー別)



天然ガスグループ全体 (地域別)



天然ガスグループ全体 (事業別)

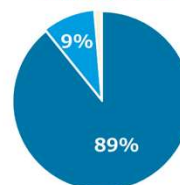
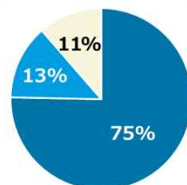
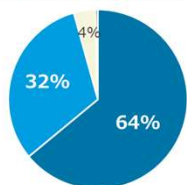


↓  
コスト増

+111%、天然ガス+153%

欧州+198%、米州+103%

建築用+178%



■天然ガス ■電気 ■重油 ■その他

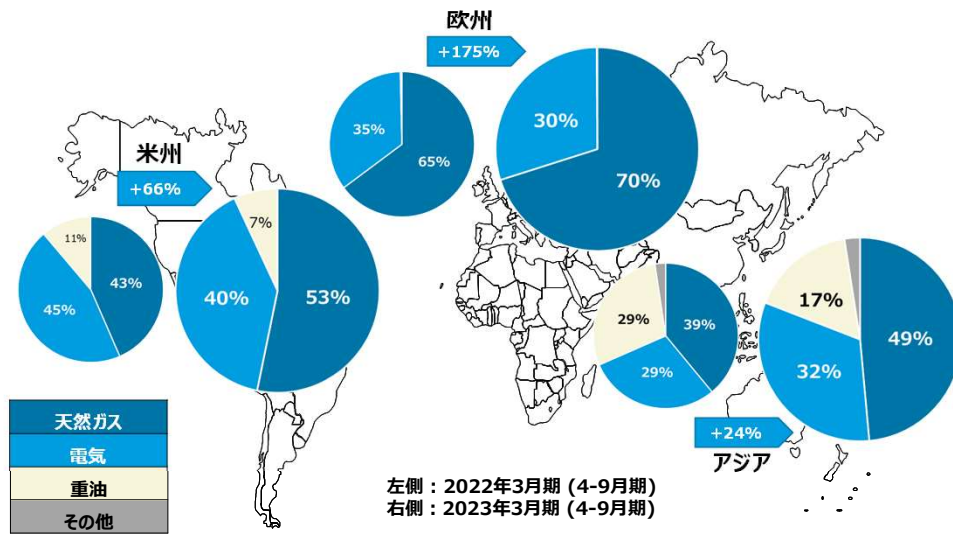
■欧州 ■アジア ■米州

■建築用 ■自動車用 ■高機能

2023年3月期 (4-9月期)

# エネルギーコスト内訳 (地域別)

天然ガス価格の高騰は欧州、米州を中心に全世界的にエネルギーコストに大きな影響を与える



左側：2022年3月期 (4-9月期)  
右側：2023年3月期 (4-9月期)



## 2022年5月～10月 主なニュースリリース

(<https://www.nsg.co.jp/ja-jp/media>)



2022年5月16日	機能性ガラス製品の価値や特長を分かりやすく発信 日本板硝子「高機能材料ウェブサイト」を新たにオープン
2022年5月26日	米国ロスフォード工場内のメガソーラー発電設備がフル稼働
2022年5月31日	中国における自動車用ガラス事業の再編統合について
2022年6月21日	ADAS（先進運転支援システム）カメラ用防曇機能付きガラスが「日本セラミックス協会技術賞」を受賞
2022年6月28日	国内ガラス製造業として初めて、温室効果ガス削減目標がSBTイニシアティブの認定を取得
2022年7月8日	コーポレートガバナンスに関する報告書を更新・開示しました
2022年7月15日	国内建築用板ガラス製品の価格改定について
2022年7月12日	「NSG's Delight in Glass」を当社国際ガラス年特設ページ内に掲載開始
2022年7月29日	オーロラのような上品な輝きをガラスピグメントで実現 ポイントメイク化粧品用光輝材「METASHINE® Auroraシリーズ」新発売
2022年8月5日	マレーシアで太陽電池パネル用ガラスの生産設備を新設
2022年8月30日	第31回 靑少年のための科学の祭典大阪大会「サイエンス・フェスタ2022」にガラス産業連合会として「不思議なガラス大集合」出展
2022年9月8日	舞鶴事業所社員が「障害者優良勤労者知事表彰」を受賞
2022年9月13日	Gomez ESGサイトランキング2022 優秀企業に選出されました
2022年10月28日	アルゼンチンで2基目の新フロート窯が稼働開始

**NSG**  
GROUP